令和５年度小松市立矢田野小学校　学校評価　１（計画）

めざす児童生徒像

「やさしく」「かしこく」　よりよく生きる子

・思いやりのある子　　自分のよさを認め、互いを認め合い、思いやれる子
・自ら進んで学ぶ子　　自ら考え、判断し、行動できる子
・あきらめずにがんばる子　　課題解決に向け、やる気をもって根気よく取り組むことができる子　失敗を恐れずチャレンジできる子

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

	目標	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
学校重点項目（学校で設定）	楽しい学校づくり		全ての項目において肯定的な意見の児童の割合が８０%以上。	①	学校が楽しいと思う。	100	89	96	-11	・概ね良い結果である。クラス会議や生徒指導の４つの視点を意識した学級づくりに取り組んできた結果である。 ・しかし，他の項目に比べ，②（自己肯定感）が低い点が気にかかる。 ・どの項目も児童の結果に比べ教師の方が過大評価している。	・クラス会議をさらに進め，児童に目的意識をもたせ，主体的に行動できるようにしていく。また，目標を達成できるような声かけや支援を行い，児童が達成感をえられるようにしていくことにより自己肯定感を高めていく。 ・教師の気づかないところで，悩んでいる児童がいると考えられるので，研修会等を充実させ，教師が児童の小さな変化にも気づくことができるようにしていく。また，相談しやすい雰囲気づくりを行い，チームで児童を支える体制を整えていく。
				②	自分にはよいところがあると思う。	90	82	94	-8		
				③	友だちのよさを認め，なかよくしている。	100	94	96	-6		
				④	クラスや学校をよくするために考えて行動している。	100	84		-16		
				⑤							
					集計	97.5	87.2	95.3	-10.2		

	目標	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目					達成状況の分析	改善策
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善		①の項目において「そうである」と答えた職員の割合が９０%以上。 ②③④の項目において「そうである」と答えた職員の割合が８０%以上。	①	80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	75				・②の項目は１００%となり，働きがいのある職場となっていると言える。 ・しかし，①③④の結果から，業務が多いと感じたりや業務に追われ心に余裕がないと感じたりしている職員がいることがうかがえる。	・昨年度の反省を受け，校務分掌の平準化を進めたが，職員の声や検証をもとに仕事環境を改善していく。 ・会議の多さや煩雑さが多忙感を招いている。学校力向上ロードマップを活用し業務の見通しを持ち、三者会及び主任会と連動させ校務分掌部会を充実させ，主任等を中心となり業務を主体的かつ組織的に進めていけるようにしていく。計画的に進め、終業時刻間近の業務依頼を減らし，時間外勤務の削減を行っていく。
				②	学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100					
				③	組織的な体制づくや業務の重点化、精選により、働きやすい環境づくりになってきている。	60					
				④	ワーク＆ライフバランスを考え、健康安全を意識した働き方をしている。	70					

	目標	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	①、②の項目を80%以上	①	研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	70				・②の項目では、90%と80%以上を達成することができた。教職員全体で学校研究に積極的に取り組んでいたことが結果として表れている。 ・①の項目では、70%と80%以上を達成できなかった。①の項目が低くなっている要因として、今年度より物語文教材の研究に変わり、４月に物語文教材を行ったが，新たに単元構想シートを作成していかなければならずその時点で共有が図れなかったことが原因であると考えられる。	・①の項目を80%以上にするために、夏季休業中を利用して各学年に単元構想シートを活用して教材研究ができるように推進していく。 ・全学年が共通実践として学期に1教材を単元構想シートを作成していく。また、業務改善や教員の教材研究力向上のために、教材研究した内容を次年度のために残していく。次年度さらに増やしていくようにする。
				②	授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	90					
					集計	80					
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	②、④の項目を80%以上	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	95	89		-6	・②と④の項目は、教員・児童共に80%以上の数値となっている。数値が高くなっているのは、全校で取り組んでいるクラス会議で相手の意見を大切にして最後まで話を聞いて受け止めることや様々な意見を出し合った中でみんなの考えとしてよりよく考えるなど、「学びを支える基盤づくり」を進めてきた成果と考える。また、日々の授業で意識して教員が声かけを行ったり、考えを深めたり、広げたりする活動を行ったりしているからであると考える。 ・一方、③の項目が、70%と全体を通して低い数値となっている。③の項目が低い要因としては、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表するとは、どうなればできているのか教職員間での共通理解を図れていないことが挙げられる。	・②と④の項目では、引き続き教職員で共通理解して進めていき、目標指数を90%以上にする。 ・③の項目については、教職員間でどのようなことができるとよいのか共通理解を図る場をもち、2学期から共通実践できるようにしていきたい。そのため、2学期以降の目標指数に③の項目を入れて、80%以上の割合を目指していく。
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。	90	88		-2		
				③	児童生徒は、自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している。	70	85		15		
				④	児童生徒は、話し合う活動では，話し合う内容を理解して，相手の考えを最後まで聞き，友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	85	92		7		
				⑤	児童生徒は、振り返る活動の中で，授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり，学びに対する達成感を得られたりしている。	90	89		-1		
				⑥	児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり，調べたりするために使用している。	85	93		8		
					集計	85.0	89.3		3.5		
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②③の平均が、中間８０%以上 年度末９０%以上	①	指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	70.0				・①に関しては、70%と目標を達成することはできなかったが、カリキュラムマップにおいて教科横断的な視点が分かるように線を引いてつながりを示している。 ・②・③の項目に関しては、85%と目標を達成することができた。学力向上の具体的な取組を共通理解しながら進めることができた結果といえる。	・①に関しては、カリキュラムマップをもとに、取組を行ってきた。しかし、教師自身が教科同士や教科と日常生活につながりをさらに意識していく必要がある。そこで、夏季休業中の職員会議で、再度教科横断的な視点について共通理解を図り、見直しを進め、共通実践できるようにしていく。さらに定期的に各学年で教科横断的な視点での活動や取組を考えていきたい。
				②	児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している。	85.0					
				③	全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	85.0					
				④	校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	58.0					
					集計	76.6					
		家庭学習	①「家で計画を立てて勉強している」②家庭学習で学習用端末を活用する」の項目の割合が８０%以上	①	家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	79	77.1			・①、②の項目とも80%以上の割合に達しなかった。①の項目では、校内で家庭学習の取組を共通理解して進めてきたが、担任の声かけ次第で計画を立てて学習する意識に差が出てしまう。また、今年度より計画を修正した時は、赤で書き込んでいく取組を行っており、力をつけている児童が増えた。 ・②の項目では、週1回の持ち帰り学習を行っている。	・①に関しては、計画を立てて学習する習慣は少しずつ身に付いてきたものの、自学を重点的に取り組むなどの工夫も必要である。２学期からは、自学ノートの内容を充実させるための取組を考えていきたい。 ・②の項目では、週1回の持ち帰り学習を継続して行っていき、家庭学習でも学習用端末を活用していきたい。
				②	学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	74	81.9				
					集計	76.5	79.5				